

2014 年第 61 回応用物理学会春季学術講演会

講演会企画運営委員長 益 一 哉*

第 61 回応用物理学会春季学術講演会が、2014 年 3 月 17 日(月)から 20 日(木)までの 4 日間、青山学院大学相模原キャンパスで開催されました。

今回の応用物理学会の総参加登録者数は 6835 名(学生比率は約 40%)で、全体としての参加者は昨年春の学術講演会(神奈川工科大学)に比べて約 2% の増加となりました。

さて、今回の学術講演会では 17 の大分類分科と 1 つの合同セッションに 3598 件の講演がプログラムされ、口頭発表: 2732 件、ポスター発表: 866 件が 40 の口頭発表会場と 2 つのポスターセッション会場で行われました。

大分類分科別に、投稿件数を図 1 にまとめてみました。投稿数増加傾向、逆に減少傾向にある大分類などさまざまです。第一著者の所属を基に投稿機関数を分類すると、産業界からの投稿数は今回もおおむね 6% 程度です。産業界、学界、官界の垣根を越えて議論してきたことが応用物理学会講演

会の特徴であり活力であったとするならば、意識的かつ抜本的な改革が必要な時期であるといえます。

講演会初日は、一般講演、ポスター講演のほか、チュートリアル(ショートコース)企画から始まります。今回は、会初日の午前に 5 件(各 3 時間)が並列に実施されました。チュートリアル講演は、当該分野を学び直してみようという方のほかに、新たにその分野に踏み込んでみようという方にも理解できるように基礎から応用までを 1 人の講師の先生にお話いただいております。

聴講者数では、一番人気のセッションは太陽電池関連の講演が集まった「12.5 有機太陽電池」の口頭セッション(講演会 2 日目午後)で、200 名を越える聴講者数となりました。

また、以下の 18 の中分類分科、
4.2 フォトニックナノ構造・現象、
5.3 光制御、
10.1 新物質創成(酸化物・ホイスラー・金属磁性体等)、

10.2 スピントルク・スピン流・回路・測定技術、
10.3 GMR・TMR・磁気記録技術、
12.2 評価・基礎物性、
12.4 有機 EL・トランジスタ、
12.7 医用工学・バイオチップ、
13.2 絶縁膜技術、
14.3 量子デバイス・プロセス技術、
14.5 化合物太陽電池、
15.4 III-V 族窒化物結晶、
15.6 IV 族系化合物、
17.1 成長技術、
17.2 構造制御・プロセス、
17.3 新機能探索・基礎物性評価、
17.4 デバイス応用、
合同セッション K「ワイドギャップ酸化物半導体材料・デバイス」

の口頭セッションでも、100 名を越える聴講者数となり、活発な質疑応答が交わされました。これを参考に、秋の講演会のときに自分の分野とは少し離れた分野の講演を聴講してみるのも面白いかもしれません。

さらに、今回実施された 27 のシンポジウム(うち分科企画シンポジウム 21 件、一般無料公開の特別シンポジウム 3 件)が開催されました。いずれのシンポジウムも、現在ホットな話題や重要となりつつある話題を取り上げているため、最新の話題を短時間に理解できることから、多くの方が参加します。これは、応用物理学会講演会の特徴となっています。

2013 年春の講演会から始まった「Poster Award」では、午前 1 回、午後 2 回実施されたポスターセッションにおいて、セッションごとに、優れたポスター講演を選出し、選出されたポス

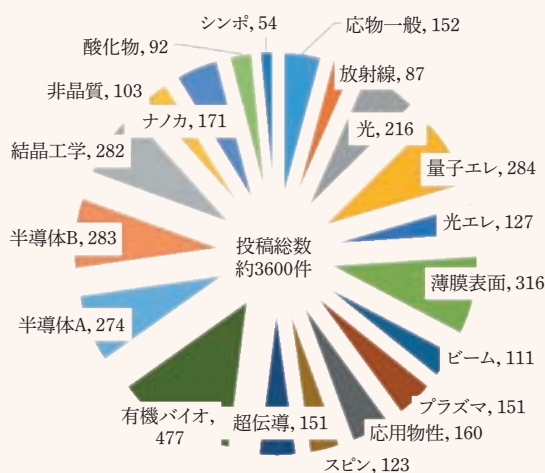


図 1 2014 年第 61 回応用物理学会春季学術講演会 投稿論文分類
(拡大分類の数には若干の誤差があります)。

* 東京工業大学 フロンティア研究機構 教授

ターをセッション終了後もポスター会場内の別のスペースで閲覧できるようにいたしました。そのスペースには、最終的に 18 件のポスターが並び、多くの参加者が足を止めていました。Poster Award の選出過程は以下のとおりです。①プログラム委員会（1 月開催）で大分類ごとのプログラム編集委員による予稿審査・候補対象の絞り込み、②ポスターセッション開始直後 30 分間での評価者による最終候補選考の後、③本会理事、フェローおよび代議員による投票、投票結果を基に、④ポスターセッション終了直前に開催される最終選考会議で決定されます。多くの方々の協力により質の高いポスター発表を選出することができております。Poster Award の設定を機に、ポスターセッションがより充実した情報交換の場となることを期待しています。しかし、Poster Award についてはまだまだ改善の余地が残っております。まず、ポスターセッション会場で投票する方の数が若干少ないことがあります。投票資格のある理事、フェロー、代議員の方には是非とも投票いただくよう重ねてお願いする次第です。多くの方から Poster Award ができたことで、ポスターの Quality が向上したという声を聞くことができ、発表者のみならず聴講者の方からも前向きな評価をいただきつつあり、講演会企画運営委員会一同うれしく思っている次第です。

Poster Award と同じく 2013 年春の講演会から始まった企画「JSAP Photo Contest (Science As Art)」を展示会場にて実施しました。今回は 11 点の作品が集まり、いずれも、芸術性を踏まえて、意外性、偶然性ありのすばらしいワンカットで、多くの参加者から注目されていました。この企画では、参

加者の投票により、最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件が選ばれました。

恒例の講演会初日の夕刻に開催される懇親会は、小田急ホテルセンチュリー相模大野で開催されました。澤邊厚仁現地実行委員長はじめ、約 300 名の参加者で親交を深めました。最近、懇親会に出る方の平均年齢が高いとのご指摘を多くの方からいただいておりますので、今回初めて学生の参加費を 1000 円として、多くの若い方にご参加いただきました。

本稿は春の講演会の報告をする場ではありますが、春の講演会を思い出しつつ、これからの応物の講演会をイメージしていただく意味でこれからの企画の一部を紹介させていただきます。

- ① 大分類・中分類：投稿される方は、大分類および中分類を選択して投稿します。中分類は、講演会企画運営委員会で常に見直しております。一方で大分類は、長い年月にわたって固定化されております。秋の講演会から大分類の一部改訂も行う予定です。
- ② コードシェアセッション：「同じような発表が重なって聴講できない」という声をよく聞きます。例えば、異なる中分類 A と B で、プログラム上はそれぞれ異なる発表なのだけれども、同会場で開催するという「コードシェアセッション」を計画しております。航空機のコードシェア便から得た発想です。投稿者は自分の選択した中分類で発表しているのだけれども、聴講者からは類似分野の発表を聴講できるというものです。是非、期待してください。
- ③ 開催場所：これまで、講演会会場は大学を借用して開催しており

ました。多くの課題が山積み、これを解消するためにコンベンションセンターを利用した開催も計画し、発表者、聴講者の満足度向上を計画しております。

- ④ 講演会企画運営委員会：講演会企画運営委員会委員って何をしているのか、ベールに隠れているかもしれません。これについては、どこかの機会で紹介される予定です。
- ⑤ 情報発信：講演会ではプログラムをパソコンだけではなくスマホやタブレットでも閲覧できるアプリによる情報発信に加えて、よりアクティブに 2013 年春の講演会からは Twitter や Facebook による情報発信を試みております。情報発信に Student Chapter の方々の協力を得ようと計画しております。
- ⑥ 秋の講演会懇親会：講演会は発表を聴講して情報を得るということのほかに、人的ネットワークを構築する非常によい機会です。秋の講演会でもリーズナブルな価格での懇親会を計画しております。

最後になりましたが、今回の講演会は、青山学院大学の教職員で構成された現地実行委員会による 1 年間にわたる準備とアルバイトの学生たちを含めての 4 日間と前日、前々日の現場での活躍のおかげで、全ての行事を滞りなく進めることができました。現地実行委員長の澤邊厚仁先生、現地実行副委員長の三井敏之先生、秋光純先生をはじめ、現地実行委員会の諸先生には厚く感謝申し上げます。また現地実行委員会顧問として全体運営にご配慮いただきました林洋一副学長、橋本修理工学部長をはじめとする関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。